

寄付のお願いと税制優遇のお知らせ

エラベル登録団体へご寄付をお願いします。

エラベル期間中(2015年12月1日～2016年3月20日)のエラベル登録5団体への寄付は、すべて公益財団法人かながわ生き活き市民基金が管理し、期間終了後に各団体への寄付金からエラベル運営費15%を除いた85%が助成されます。

お願い1

寄付申込書記載にご協力ください。(公益財団の寄付者管理のため必要)
⇒財団ホームページのエラベル寄付申し込みフォームで送信 または
⇒申込書をfax等でお送りください

お願い2

寄付先がわかるようにお願いします。
⇒お振込みの場合…公益財団法人かながわ生き活き市民基金のそれぞれの
団体専用の口座(各団体紹介ページに記載、口座名義人は公益財団法人かな
がわ生き活き市民基金)へお振込みください。
郵貯の場合、お持ちの郵便口座から財団郵便口座への送金にすると手数料
がかかりません。
⇒現金の場合…寄付先がわかるように寄付申込書に記載をお願いします。ま
た、寄付者名、連絡先を記載してください。
⇒各団体に直接寄付金を持ちこまれる場合、団体より仮領収書をお渡ししま
す。後ほど財団から領収書をお送りします。

寄付で税額控除を受けましょう

公益財団法人への寄付金は、確定申告により税制上の優遇措置が受けられます。

個人寄付の場合

⇒控除対象になる税金は、「所得税」(寄付金の40%が控除される「税額控除」が
有利)と「県民税(4%控除)および市町村民税(6%控除)」です。※ただし川
崎市、横須賀市、伊勢原市、座間市は財団の市町村民税優遇の該当外です。

☆ 控除対象寄付は、当財団への寄付(エラベル寄付や福祉たすけあい基金寄
付)、社会福祉法人、認定NPO法人への寄付などを合算した金額から2,000
円をひいた金額(寄付金合計-2,000円)です。

☆ 例えば横浜市に住んでいる人が、合計1万円を寄付した場合の税金の控除金
額は(10,000円-2,000円)×50%=4,000円になります。

☆ 確定申告には、①「かながわ生き活き市民基金発行の領収書」と②「税額控除
に係る証明所の写し(当財団ホームページからダウンロード)」が必要です。

☆ 2015年度(2016年2月16日～3月15日)の確定申告は2015年1月
～12月中の寄付が該当します。2016年1月～12月の寄付は、2016年度
(2017年2月～3月)の確定申告です。

法人寄付の場合

●「一般損金算入」とは別に「特別損金算入」も適用されます。

※寄付控除・損金算入は条件がありますので、詳しくは当財団ホームページをご覧いただきか、
お住まいの自治体、税務署にお問い合わせください。



〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-2-15パレアナビル6F

Tel: 045-620-9044 Fax: 045-620-9045

Mail: info@lively-citizens-fund.org

URL: http://www.lively-citizens-fund.org/

Facebook: https://www.facebook.com/livelycitizens-fund

かながわ市民基金

検索

2015年11月

活動 寄付

思いと思いをつなぎ、
だれもが生き活きと暮らせるまちづくりを支援する

事業指定助成プログラム

「エラベル」

2015年12月1日～2016年3月20日



市民活動をえらんで きふ!



神奈川初の公益財団による市民基金です。
神奈川県内の地域課題に取り組む市民団体の活動と市民の寄付をつなぎ、
生き活きとした市民社会を目指しています。

事業指定助成プログラム 「エラベル」

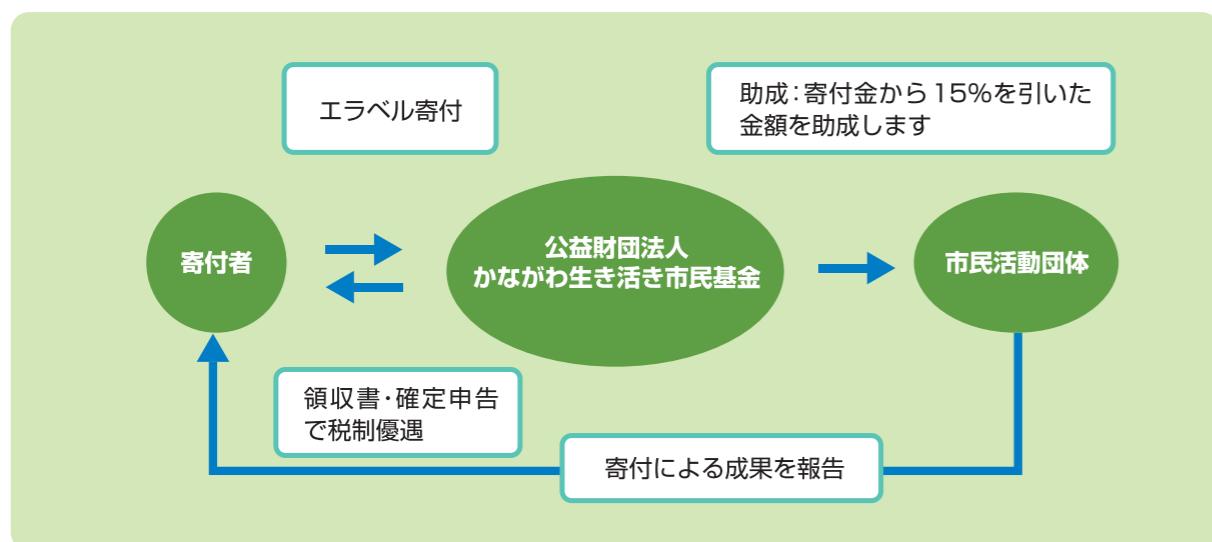
は、

◆地域を豊かにしよう、地域で起きていることをほっとけない、解決したい…と活動する団体を寄付で応援するプログラムです。

◆活動への支援（寄付）が必要な団体と、活動に共感する生き活き市民基金が協同して、おおぜいの市民に活動の趣旨を伝え、期間を決めて広く寄付を募ります。

◆生き活き市民基金は、ともに寄付集めを行う団体【エラベル登録団体】を募り、選考させていただいています。今年度から選考委員が応募団体のプレゼンを聞いたうえで、寄付募集の支援を行うかを決定するように、選考方式を変更いたしました。

◆今回の応募団体は、いずれも社会的ニーズ・時代のニーズに即した公益性の高い活動をされていることから、5団体すべてをエラベルの登録団体とさせていただきました。



公益財団法人 かながわ生き活き市民基金からの メッセージ

子どもへの虐待や貧困が原因で、食事を十分にとれない、学習機会が十分にない等、生活環境の悪化にある子どもたちが特殊な存在ではなく、むしろ地域のそこここで起こっているという現実があります。また少なくない若者たちが、非正規雇用の不安、就労できない、居場所がない、いったん失敗するとセカンドチャンスがないなど、厳しい状況から抜け出せない現実があります。

2015年のエラベル登録団体5団体は、偶然にも子ども・若者をテーマとしています。私たちは、地域で起きていることにいち早く気づき、やむに已まれぬ思いから活動を始めた市民団体の思いや活動を知り、寄付を通じて子ども・若者等を支援し、活動を応援する輪を広げていきたいと願い2015年のエラベルに取り組みます。

2015年度エラベル登録団体

1) 認定特定非営利活動法人 エンパワメントかながわ P 4-5

【1万人の子どもにCAPを届けるキャンペーン】

「いじめられていい人は一人もいない」と伝えたい！

「いじめ、虐待、性暴力などあらゆる暴力から、子ども自身が身を守るためにプログラムを実施するためにご支援ください。」

2) 一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ（ソコナ） P 6-7

【若者とともに地域や社会の課題を見つけ、解決の方法と一緒に考える＜学び合いの場＞づくり】

地域や社会の将来を若者と一緒に考えよう！

「若者は、自分たちが暮らす地域や社会をどんな未来にしたいのでしょうか。若い世代の声を聴き、共に考える＜学び合いの場＞づくりを応援してください。」

3) 特定非営利活動法人フェアスタートサポート P 8-9

【貧困等の家庭の事情で18歳で就職自立を目指す若者への就労支援事業】

「かわいそうじゃなく、もったいない」若者の可能性を応援します

「18歳で親を頼れず自立する若者達に丁寧な就労支援を届けます。どんな環境で育った若者にも公平にチャンスが与えられ、若者の可能性が活かされる社会を創る為、一緒に若者達を応援してください。」

4) 特定非営利活動法人ミニシティ・プラス P 10-11

【こどものまちづくり応援事業】

まちの課題に気づいたこどもたちが大人と一緒にまちづくりにチャレンジします！

「まちの課題解決に向けたこどものアイデアを形にするための実費経費（こどもの交通費や提案実現にかかる材料費）とそのコーディネート費用に寄付をお願いします。」

5) 企業組合ワーコレ・キャリー P 12-13

【くらしのサポート事業はっぴい&キャリー 働きづらさ・生きづらさをもつ人や若者応援・共働事業】

誰もが共に働く場を広げたい！ ーあなたらしい暮らしのお手伝いー

「経験のない若者が研修に通い続けるための費用、その活動・事業を広げるためにご協力ください。」

1万人の子どもにCAPを届けるキャンペーン

認定特定非営利活動法人 エンパワメントかながわ

事業目的

暴力のない社会の実現を目指して、人権啓発活動をしています。一人ひとりの人が、自分自身を大切な存在と気づき、人と人がお互いの力を引き出しあいつながっていくことで、あらゆる暴力をなくしていくことを目指します。

CAPとは
誰もが基本的人権を持った「大切な人」であることを伝え、子どもの身近にある暴力（いじめ、誘拐、性暴力）を取り上げながら、子どもたちが暴力にあわないために出来ることを具体的に考え、体験する人権教育プログラムです。

活動歴

2004年3月、任意団体として設立。
同9月所轄庁の認証を得て、特定非営利活動法人として登記。
2013年3月26日神奈川県指定。
2014年2月10日所轄庁より認定を受ける。

団体情報

住所
横浜市神奈川区鶴屋町2-9-22
日興パレス横浜 701号
電話 045-323-1818
メルアド
kanagawa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp
HP <http://npo-ek.org/>

「いじめられていい人は 一人もいない」と伝えたい！

いじめ、虐待、性暴力などあらゆる暴力から、子ども自身が身を守るためにプログラムを実施するためにご支援ください。



事務局長 池畠博美さん

私たちは、神奈川県内の約16万人の子どもたちに、CAP（子どもへの暴力防止）プログラムを実施してきました。

多くの子どもたちとの出会いの中で、自分を大切に思えない子、人を傷つけてしまう子、おとなからの暴力にさらされ続けている子からたくさんの話を聴いてきました。

プログラムを受けた子どもたちは、「いじめられていい人はいないとわかって良かった」「相談できるおとなはいるんだと思えた」「私には権利があると知ってほっとした」と感想を寄せててくれています。

私たちは、CAPによって、子どもへの暴力の問題を減少させることができると信じています。

地域課題

いじめによる自死や虐待死、子どもが巻き込まれる犯罪などが後を絶ちません。

暴力にさらされている子どもたちは、「自分には価値がないから、こんな目にあって仕方ない」「一人で我慢すればいい」「誰も話を聴いてくれない」と、無力感で一杯になっています。

このまま、暴力に対して何ができるか見いただせないでいれば、自分を大切に思えない、暴力の影響がその子の成長に深刻な問題をもたらすこともあるでしょう。

解決方法

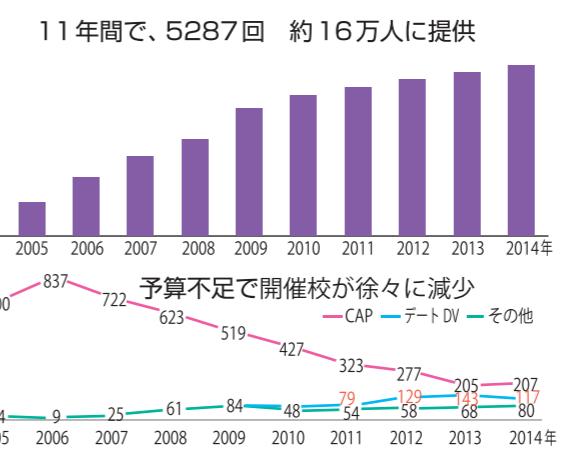
CAPプログラムは、子どもの身近な暴力の問題に、大変有効なものであるにもかかわらず、その費用を手当てできずに実施数が減少していました。そこで、通常2万円で実施していたものを、1万円のご寄付と1万円分のスタッフのボランティアによって、提供を可能としました。この取組は、2014年9月10日から実施しています。2015年9月までに、47回1302人の子どもたちに実施済みです。2015年度中に実施予定は、81回、2207人となります。1万人に達成するまでまだまだ継続しています。2016年度実施分のご支援をお願いいたします。



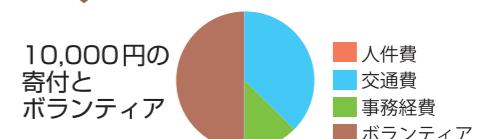
安心・自信・自由の権利の実施の様子



特別な叫び声で自分の身を守る



新たな10年に向けてボランティアと寄付で開催校を増やしたい



事業指定助成プログラム 「エラベル」 目標金額 1,200,000円

寄付で可能になること

目標金額の30% 36万円で	約900人の子どもに安心を届けます。 約300人のおとなに子どもの気持ちに寄り添う聴き方を伝えます。
目標金額の50% 60万円で	約1,500人の子どもに自信を届けます。 約450人のおとなに子どもの力を信じてほしいと伝えます。
目標金額の70% 84万円で	約2,100人の子どもに自由を届けます。 約700人のおとなに子どもを支える人になって欲しいと伝えます。
目標達成で	約3,000人の子どもと約1,000人のおとなに、どんな人も暴力にあわずに生きていく権利があると伝えます。

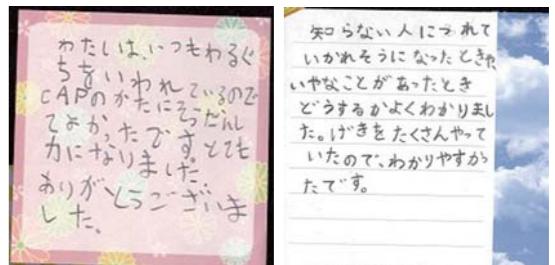
【寄付方法】 エンパワメントかながわ専用口座

郵便振替 00250-9-52723

銀行振込 中央労働金庫 新横浜支店 普通預金 118461
口座名義人 ザイ)カナガワイキイキシミンキキン
045-620-9044

参加者の声

CAPを受講した子どもたちの感想



- いじめていたけど、謝りたい。
- いやなことには「いやだと言っていい」とわかってほっとした。
- 話を聴いてくれてすっきりした。

子どもたちはもともとたくさんの力を持っている存在です。
自分自身で、できることが見つかると輝く笑顔になります。
子どもたちの直筆感想は、ご支援いただいた寄付者様にお届けします。

若者とともに地域や社会の課題を見つけ、解決の方法と一緒に考える＜学び合いの場＞づくり

一般社団法人 ソーシャルコーディネート かながわ（ソコカナ）

事業目的

私たちは、豊かで自立した地域社会をつくるため、市民の立場から、地域の様々な主体による対話の場をはぐくむとともに、市民、NPO、企業、教育機関、行政などの様々な社会資源をつなぎ、連携・協働して地域課題を解決する動きをつくります。

活動歴

NPOと企業の連携を進める民間団体として2008年に発足し、地域課題の解決に意欲や関心のある個人や団体がつながるお手伝いをしてきました。

2012年に規約や体制を整備して社団法人となり、かながわ県民活動サポートセンター（横浜市神奈川区）を拠点に、ボランティア・市民活動、企業のCSR活動などの相談に応じています。さまざまな世代、立場の人々が集まり、市民活動やCSRについて学ぶ研修会・セミナーも数多く開催しています。

団体情報

住所 藤沢市藤沢577 寿ビル301
電話 0466-27-4057
メールアド contact@soco-kana.jp
HP http://www.soco-kana.jp

地域や社会の将来を若者と一緒に考えよう！

若者は、自分たちが暮らす地域や社会をどんな未来にしたいのでしょうか。若い世代の声を聴き、共に考える＜学び合いの場＞づくりを応援してください。



副理事長 藤枝香織さん

私たちが暮らす社会には、若者（学生や若い世代の社会人）が中心となって活躍する市民活動・社会貢献活動がたくさんありますが、私たちオトナ世代の市民が、それらの活動について知り、応援する機会は多くありません。若い世代の視点から見た地域や社会の課題、そしてそれを解決するためにどのようなアクションを起こしているのか、彼ら彼女らの声を直接聴き、私たちに何ができるのか、共に学び考える＜学び合いの場＞を創りたいと思います。

ここには、県内の学生（高校生や大学生）を招待し、同世代・異世代、さまざまな背景をもつ人々が交流することで、新たな学びやつながりの機会となることをめざしています。

学生や若い世代も気軽に参加できる、かながわの＜学び合いの場＞をつくるためにご協力ください。

地域課題

これから地域や社会を創り拓いていく若者が、地域社会とつながりを持ち、そこにある課題に気づき、他者と関わりながら、自分たちの暮らす社会をよりよいものに変えていくける力を身につけることが求められています。

解決方法

学生団体・青年団体、若い社会起業家など、市民活動や社会貢献活動に取り組む若者たちと一緒に、市民講座（学び合いの場）を企画して開催します。テーマは、環境、福祉、人権・平和、まちづくりなど、諸課題から毎回ひとつ選びます。

目的は、参加する一人ひとりの若者が、自分たちの生活につながる地域や社会についてより深く関心をもち、自分なりの考え方や関わりが持てるよう促す場とすることです。

この講座は、ご支援いただく皆様にもご参加いただけます。



講座でのワークショップの様子（ソコカナ）



100%ソーラーエネルギーを活用したロックコンサート「中津川ソーラー武道館」に出演（A SEED JAPAN）



グローバルフェスタ（エコ貯金プロジェクト）

事業指定助成プログラム
「エラベル」
目標金額 **200,000円**

寄付で可能になること

目標金額の30%6万円で	1回の講座に20名の学生や若者を招待できます。
目標金額の50%10万円で	1回の講座に30名以上の学生や若者を招待できます。
目標金額の70%14万円で	2回の講座にそれぞれ20名の学生や若者を招待できます。
目標達成で	2回の講座にそれぞれ30名以上の学生や若者を招待できます。

【寄付方法】 ソーシャルコーディネートかながわ専用口座

郵便振替 00270-6-102471



銀行振込 中央労働金庫 新横浜支店 普通預金 109560
口座名義人 ザイ) カナガワイキイキシミンキイン
045-620-9044

協力団体の声

— A SEED JAPAN —
<学び合いの場>づくりに協力します

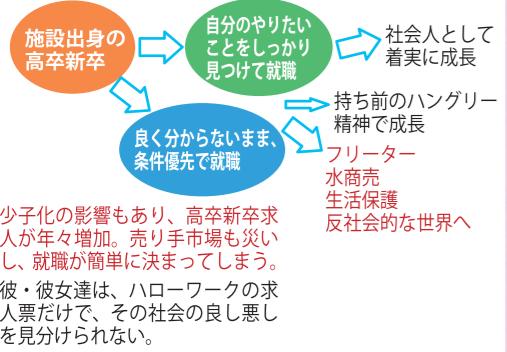
A SEED JAPANは1991年に設立された国際青年環境NGOです。青年の立場から一貫して、環境問題やその根本にある社会の現状、経済の仕組みに焦点を当てた活動を展開してきました。25年間で100名以上の人材を企業やNPO等に輩出しています。長く活動を続けられるのは、若者系、環境系、ソーシャル系など「様々な関係団体の方々とのつながり」があったからこそです。この企画を通して、若者主体のネットワーク作りに関わり、皆様と情報を共有して、市民活動の推進につなげたいです。

A SEED JAPAN 共同代表
永井 亮

貧困等の家庭の事情で
18歳で就職自立を目指す若者への就労支援事業

フェアスタート

特定非営利活動法人 フェアスタートサポート



事業目的

貧困や虐待等、家庭の事情により18歳での就職自立を目指す若者が就業に関して公平な機会をえられる社会を創る。

活動歴

<発足年月>
2010年5月 代表永岡鉄平が個人でボランティア活動を開始
2013年1月 NPO法人化(横浜市)
<事業内容>
・児童養護施設等の子ども達・若者達へのキャリア教育事業
・児童養護施設等退所者へのアフターフォロー事業
<支援実績施設数>(平成27年9月現在)
神奈川 22施設 東京 38施設 千葉 2施設 埼玉 2施設／定時制高校 2校 クリエイティブスクール 1校 通信制高校 1校
<就職相談支援実績>(平成27年9月末現在)
200名

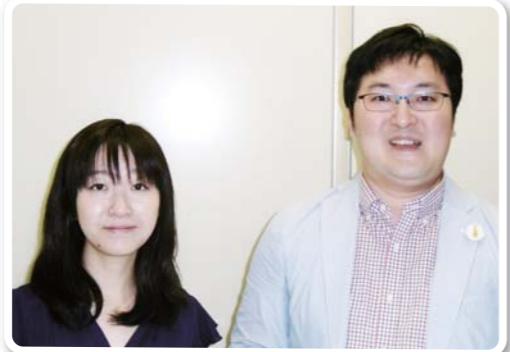
団体情報

住所
横浜市中区北仲通 3-33 閔内フューチャーセンター 214
電話 045-319-4675
メールアド info@fair-start.org
HP http://fair-start.co.jp

「かわいそうじゃなく、もったいない」若者の可能性を応援します

18歳で親を頼れず自立する若者達に丁寧な就労支援を届けます。どんな環境で育った若者にも公平にチャンスが与えられ、若者の可能性が活かされる社会を創る為、一緒に若者達を応援してください。

代表理事 永岡鉄平さん(右)



施設や定時制高校等で育った子ども達、若者達にはそういった環境にいたからこそ得られた強みがあります。社会人になってから大切になる、働くことに真面目に向き合う姿勢、豊富なアルバイト経験、挨拶やルールを守る習慣など、挙げたらきりがないほどです。

18歳で就職し自立しなければならない宿命があるからこそ、同世代の一般家庭の若者には手に入れられない強みが必ずあります。「自分は施設出身だから」「定時制の卒業生だから」という理由で自らの可能性を閉じることは、本人にとっても社会にとっても大変にもったいないこと。どんな環境で育った若者にも公平にチャンスが与えられ、若者の可能性が活かされる社会を創る為、一緒に若者達を応援してください。

地域課題

児童養護施設や定時制高校等の若者達の多くが高校卒業時の18歳で就職し、自立を目指します。しかし、通う高校によって受けられるサポートに差があり、家庭の問題で勉強に専念できず成績が悪いと希望する求人が受けられなかったり、就職過程の問題によって3年以内の離職率が約7割にものぼります。

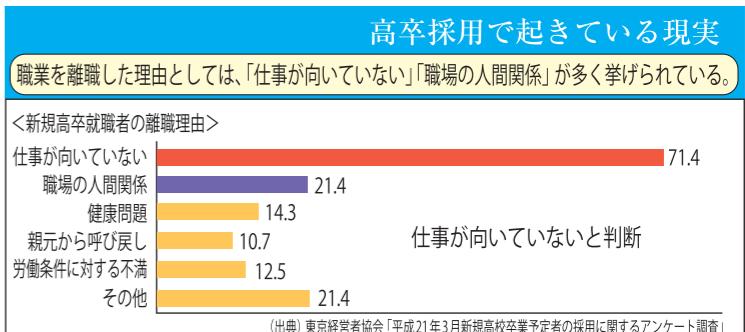
本人だけに問題があるのではなく、受けている社会構造にも問題があるのです。私達はこの課題を解決し、若者達が公平にチャンスを得られる社会を創りたいと考えています。

解決方法

小学生から参加できるパソコンのスキルアップ教室や会社の見学ツアーを提供し、早期から世の中にはどんな仕事があり、自分は何がやりたいのか考えるきっかけを作ります。また、高校生には会社と交流できる合同交流会、個別での適性検査や就職相談、その後の会社見学や就労体験等をオーダーメイドで提供し、丁寧に企業とのマッチングを行います。入社後の「こんなはずじゃなかった」という事態を防ぎ、若者の安定した就労の継続を実現します。



会社見学ツアーでケーキ職人の仕事を見学する子ども達



企業と高校生の交流会。社長みずから事業について説明します

事業指定助成プログラム
「エラベル」
目標金額 **300,000円**

寄付で可能になること

目標金額の30% 9万円で	スタッフ3人が3か月間施設や高校へ出張面談に行くことができます。
目標金額の50% 15万円で	個別で企業見学や就労体験のコーディネートを1か月半行なうことができます。
目標金額の70% 21万円で	企業5社と求職中の高校生が交流する合同交流会を年に2回行なうことができます。
目標達成で	1年間個別相談を受けながらすべてのプログラムをおこなえます。

寄付方法

フェアスタートサポート専用口座



郵便振替 00240-1-83238

銀行振込 中央労働金庫 新横浜支店 普通預金 109551
口座名義人 ザイ)カナガワイキイキシミンキン
045-620-9044

会社見学ツアーに参加した若者の感想

- 働くってことはただお金をもらうことだと思ってたけど、社長さんの話を聞いてそれだけじゃないんだって思いました。自分も人に喜んでもらえるように働きたいと思います。
- 高校の求人にはないような仕事の種類があったり、たくさんの会社を見学、体験させてもらえて、自分にいちばんあっていいる仕事、会社をしっかりと考えることができました。
- フェアスタートの紹介でであった会社では永岡さんや職員さんにも同席して社長さんと一緒にカフェでお茶をしながら話をしました。面接が苦手でなかなか内定がもらえないかった僕ですが、おかげで緊張せず自分の思いを伝えることができて、無事に合格することができました。

子どものまちづくり応援事業

特定非営利活動法人 ミニシティ・プラス

事業目的

「まちはそこに暮らす人、かかわる人たちで創り上げていく」という理念から、まちの中で暮らす人が「まちについて知り」「まちのことを想い」「まちにかかわる」ために有効な事業をしていきます。特に未来を担う子どもたちが、自由な発想で社会について知り、体験し、考えるチャンスをつくり、その中で自分らしさが活かせる生き方を自分の力で見つけられるように促していきます。また、「まちづくり」を通して、大人もこどもも、「生まれてきたすべての人が社会の大切な一員であることを互いに認めあい、助け合ってこそより良い社会がつくられる」ということを、楽しみながら学んでいくことをを目指します。

活動歴

2006年研究会からスタートし、2008年NPO化。2007年子どものまち「ミニヨコハマシティ」初開催。2008年子どものまち世界会議inベルリンにこどもたちと参加。2009年第2回子どものまち世界会議を横浜に誘致。開国博内でミニヨコハマシティ開催。都筑区役所の周年事業で「つづきジュニア編集局」を立ち上げ。2011年トリエンナーレ新港ピアで「こどもがつくるこどものむら」開催。神奈川県の新しい公共モデル事業に「特命こども地域アクター事業」が採択。2012年被災地東北に子どものまちをこどもたちがお出張。2013年神奈川県の基金21事業に「特命こども地域アクタープロジェクト」及びこどもまちづくり基金の設立が採択。現在協働事業進行中。

団体情報

住所 横浜市都筑区南山田 2-1-2-306 (登記)
横浜市都筑区中川 1-4-1-107 (事務所)
電話 045-306-9004
メールアド minicityplus@gmail.com
HP <http://minicity-plus.jp/>

まちの課題に気づいたこどもたちが大人と一緒にまちづくりにチャレンジします！

まちの課題解決に向けた子どものアイデアを形にするための実費経費（子どもの交通費や提案実現にかかる材料費）とそのコーディネート費用に寄付をお願いします。



事務局長 岩室晶子さん

私たちは、まちの課題解決に、こどもたちが大人と一緒に取り組む活動を神奈川県と協働で行っています。こどもには社会性が育まれ、まちづくり活動をする大人には、思いを継ぐ新たな担い手の発掘となっていく…そんな、場づくりをしています。県との協働事業終了後（H31年度～）の自立を目指す一步として、多くのみなさまにこの活動を知ってもらいたく、今回エラベルに応募しました。まちづくりに参画する子どもの活動に応援、お願いします。

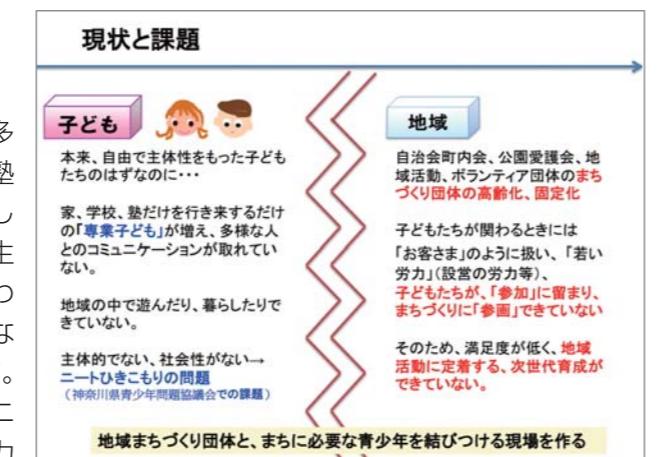
地域課題

今の青少年の多くは、家、学校、塾などだけで生活しており、親、先生以外の大人と関わるチャンスが少なくなっています。そのためコミュニケーション能力や、社会性が足りず、不登校やひきこもり等の困難を抱える青少年が増加しています。社会性を育み、生きる力を付けるために、地域と積極的に関わる機会を増やす必要があります。

一方、まちづくりの現場では、メンバーの高齢化や活動のマンネリ化などの課題を抱えている団体が多く、次世代を担う若者を増やし、活動をもっと活性化したいと願っています。そのためには、まちづくり団体にも、青少年の「社会参画」を受け入れる体制や、ノウハウが必要です。

解決方法

こどもたちはまちを楽しくする天才です。まちの課題を話して、考えてもらうと、まちを元気に楽しくするアイデアをどんどん出して、実働もしてくれます。少しの費用で、楽しいプロジェクトを生み出すのが得意なこどもたちと、まちの課題を抱えている大人をつなぎ、まちづくりにこどもたちが当たり前に関わる状態を、一つでも多くつくりていきたいと思います。そしてそのしぐみが継続できるようなコーディネートを当法人がていきます。



地域まちづくり団体と、まちに必要な青少年を結びつける現場を作る



△ 子ども達の企画したお店



商店街で手作りの子供みこし



成果発表会の様子

事業指定助成プログラム 「エラベル」 目標金額 400,000 円

寄付で可能になること

目標金額の30% 12万円で	商店街を舞台にした「子どものまち」などの地域型まちづくりイベント活動を拡げるために10人程度のこどもたちと、コーディネーターのチームが活動できます。
目標金額の50% 20万円で	さらにもう10人程度のこどもたちが活動できます。
目標金額の70% 28万円で	もう1カ所、県内の別の地域で、別のテーマでも、まちの美化や子育て支援や障害者支援などの別のテーマで、こどもたちが発案したまちづくり活動が展開できます。
目標達成で	2カ所の活動でも、20名程度のこどもたちが活動に参画できます。

寄付方法】ミニシティ・プラス専用口座

郵便振替 00230-1-136752



銀行振込 中央労働金庫 新横浜支店 普通預金 109589
口座名義人 ザイ カナガワイキイキシミンキキン
045-620-9044

参画した子どもの声

●学校からボランティアをすることはあるけれど、いわれたことをやるお手伝いだけ。地域アクターの活動は、企画会議から参加できるので、とてもやりがいがある。
(中1女子)

●地域アクターに参加して、こんなにもまちのために、一生懸命動いている人がいるんだと知った。仕事というだけではなく、まちのためになることしている大人はかっこいいと思った。
(高1男子)

受け入れ団体の声

●思った以上にこども達はすごい！と思った。制約を考えないので、アイデアがどんどん出てくるし、しがらみもないでの、自由な発想がある。打ち合わせに入っちゃうただけでも新鮮な感動があり、団体内が活性化した。
(まちづくり団体)

●8年間イベントができたなかった商店街が地域アクターのおかげで変わった。お金も人もない、と言ったら、まったくお金のかからないイベントを考えてくれた。こどもたちはお金をかけずに工夫する天才だと知った。
(商店街理事)

くらしのサポート事業
はっぴい&キャリー
働きづらさ・生きづらさを
もつ人や若者応援・共働事業

企業組合ワーコレ・キャリー



事業目的

少子高齢・人口減少社会の到来を迎え、日常の生活中に不便や不自由を抱える高齢者の増加が見込まれます。この課題に対処するために、地域の高齢者に生活支援サービスを展開しているワーカーズ・コレクティブはっぴいさんとコミュニティ配送事業を行っている企業組合ワーコレ・キャリーがコラボし、「生前整理・片付け、引き払い」事業に取り組みます。

若者たちが中心になって、より発展的に事業を拡大して地域市民の誰もが安心して心豊かに暮らせるまちづくりをめざします。

活動歴

1998年企業組合ワーコレ・キャリー設立、一般貨物自動車運送事業・軽貨物自動車運送事業資格取得。
2000年食品・物品等販売事業資格取得・キャリー俱楽部開始。
2001年生活クラブ生協牛乳配達全面委託。
2009年神奈川県中小企業団体中央会モデル組合表彰。
2010年お気軽ポーター便事業開始。
2012年横浜市青年局より若者就労訓練団体として表彰。
2014年くらしのサポート事業調査実施。
2015年くらしのサポート事業実験取組み開始。

団体情報

住所 横浜市緑区鶴居町 2430-1
電話 045-934-1911
メールアド milk-carry@carry-club.jp

誰もが共に働く場を広げたい！ ～あなたらしい暮らしのお手伝い～

経験のない若者が研修に通い続けるための費用、その活動・事業を広げるためにご協力ください。

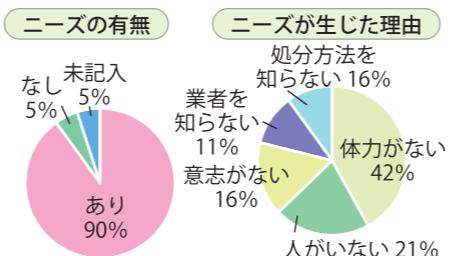


理事長 伊佐憲明さん
(左)

このたびの、くらしのサポート事業「はっぴい&キャリー」は、企業組合ワーコレ・キャリーとワーカーズ・コレクティブはっぴいさん、ワーカーズ・コレクティブ協会の3団体が「誰でも働く場づくり」を共通テーマとして準備してきました。この事業は一般企業에서도すでに実行されている業種ではありますが、私たちは利用者の尊厳を守り、細かなニーズに対応し、片付け後に残る廃棄物を徹底的に分別して環境へも配慮します。そこで働く人たちは、一般の方や障がい者、無業・失業中の若者、シングルマザー、高齢のシングル女性、生活に困窮している人などの多様な人たちとし、働く意欲がありながらその機会に恵まれない人たちの社会体験から実習、就労、そして社会参加の場までを可能とします。福祉と環境をテーマにした社会的協同組合をめざします。

地域課題

横浜市内のワーカーズ・コレクティブのケアマネージャーを対象とした高齢者の片付け・整理ニーズのアンケート調査からは、9割がニーズはあると回答しましたが、現状では介護保険制度外のサービスとなり、なかなか手を出せない状況が見えました。また、高齢者以外に障がい者や病気の当事者及びその家族も片付けをする体力がない、お預りできる人がいない、業者を知らないなどの回答からニーズがあることがわかりました。



解決方法

高齢者や単身の方、障がい者やその家族など生活支援が必要な人たちへ、掃除・片付け、整理などのソフトな福祉サービスから、移転に伴う引っ越し、引き払いまでの事業を行います。この事業を通して、より多くの若者やシニアなど多様な人たちの参加を促し、居場所兼働き場を豊富化して事業の継続、拡大を図り、地域の中で市民が中心となって暮らしを支え合う仕組みを準備していくことで、今後の社会状況を乗り越えることが可能になると思われます。

※ワーカーズ・コレクティブ はっぴいさん
就労経験のない若者や雇用機会に恵まれない若者が自ら活躍できる場として2013年設立。



大事なものが無いか
一つ一つ丁寧に確認
しながら片付けた前と後



キャリーとはっぴいさんが協力して引き払い実験を行った一場面

事業指定助成プログラム
「エラベル」
目標金額 **1,000,000円**

寄付で可能になること

目標金額の 30% 30万円で	6人の若者が10日間、分別・引き払い研修に参加できます。
目標金額の 50% 50万円で	さらにホームページの作成費用を賄えます。
目標金額の 70% 70万円で	さらに新規事務所の備品の調達ができます。
目標達成で	さらに新規事業に使用する車両の維持費を賄えます。

【寄付方法】ワーコレ・キャリー専用口座

郵便振替 00220-6-102971

銀行振込 中央労働金庫 新横浜支店 普通預金 109570
口座名義人 ザイ)カナガワイキイキシミンキン
045-620-9044



実験取り組み中の 利用者の声

- 対応もとても丁寧で安心できました。片付けが必要になったときにはまた利用させていただきたいです。
- これから益々独居のお年寄りが増えるので、不用品処分のニーズはたくさんあると思います。今回のように、きめ細かく対応してくださるととても喜ばれると思います。
- 以前にトラック一杯いくらという形で処分しましたが、後から考えると雑多なものをひとまとめにして片付けたために、貴重品が含まれていたかどうか分かりませんでした。今回、はっぴいさんが仕分けして、キャリーさんが運んでくださったように公明正大な片付けができたことは良かったです。

2014年度事業指定プログラム「エラベル」寄付者一覧

(寄付募集期間 2015年1月5日～3月20日)

4登録団体に137人28団体から寄付をいただきました。以下同意を頂いた方のお名前を掲載し、御礼申しあげます。

【個人の方】

岩田雄一さん、武本昭雄さん、佐藤香里さん、池田玲子さん、向田映子さん、梅原真理子さん、樋口万喜子さん、佐藤壽子さん、鈴木雅之さん、高橋東三さん、藤江彰さん、嶽肩志江さん、二見勇二さん、小村昭弘さん、杉山元孝、石川直、鈴木誠、四反田桂子、若狭恭弘、手塚明美、鈴木勝、森岡裕子、森岡良宏さん、戸田美智子さん、深澤徳山さん、柏木晶子さん、小野まどかさん、神馬純江さん、大嶋みさ子さん、築地秋子さん、長主節晴さん、柏木規子さん、仲丸則雄さん、本堂百合子さん、中村訓江さん、齋藤邦夫さん、セキケイコさん、小林雅彦さん、望月利久さん、元木知子さん、古賀よしこさん、森田松美さん、増田温子さん、内山昭雄さん、渡辺智美さん、星千代子さん、大野圭子さん、丸谷土都子さん、鴻池弘子さん、三上雅子さん、清水久美子さん、天野伸子さん、高橋康子さん、宇隨由香さん、松本恩さん、森本奈津子さん、林誠子さん、岡田一弘さん、中出美和子さん、永田美珠保さん、小林史子さん、影嶋知香子さん、城田喜子さん、菅原二恵さん、五十嵐信さん、菅原尚子さん、加藤恭子さん、富田律子さん、荻原邦男さん、村本奈央さん、瀬野由紀さん、斎藤博美さん、島田純子さん、鈴木英明さん、内田明さん、渡邊朋美さん、吉村恭二さん、大石高久さん

個人寄付合計金額： 1,869,721円

【団体（順不同・敬称略）】

湘南生活クラブ城下町コモンズ、湘南生活クラブコモンズ足柄、横浜みなみ生活クラブ生協、ワーカーズ・コレクティブキャリーエル企業組合、ワーカーズ・コレクティブデポット、（企）ワーカーズ・コレクティブある、ワーカーズ・コレクティブあんず、ワーカーズ・コレクティブのぞみ、ワーカーズ・コレクティブたすけあいせや、株式会社カジノヤ、共生食品株式会社、株式会社 浜食、オルタスクエア株式会社、株式会社ウエルライフ、株式会社ニッコー、株式会社互光商会、株式会社オルタフーズ、株式会社山田建設、生活クラブ農産物協議会、横浜生産者グループ、重茂漁業協同組合、丸壽阿部商店、エスケー石鹼株式会社、農業生産法人有限会社王隱堂農園、社会福祉法人キャマラード、杉山管工株式会社、よつばの会、ニューカマー教室

団体寄付合計： 764,154円

※個人名、団体名は同意を頂いた方のみの掲載させていただいております。

2014年度のエラベル活動

団体名	支援が必要な事業活動	寄付総額	助成額
認定NPO法人湯河原町地域作業所たんぽぽ	身体・知的・精神の障がい者の社会参加を応援する事業（施設拡充の設備費用）	1,667,654円	1,430,862円
NPO法人フェアスタートサポート	社会に出る児童養護施設等の子どもたちのスタートを応援する事業（就労体験・資格取得費用）	346,870円	299,196円
「福島の子どもたちとともに」川崎市民の会	東電福島第1原発事故を風化させることなく、福島の子どもたちを支援する事業（保養プログラム実施費用）	234,000円	205,506円
認定NPO法人地球学校	外国籍等の子どもたちの日本語力アップ支援。（教材開発と普及活動費用）	370,351円	319,154円

寄付総額から運営費を減じた額が助成額です。

2014年度登録団体からのメッセージ

認定NPO法人湯河原町地域作業所たんぽぽ 鈴木雅之所長 談

希望する利用者さんを全て受け入れるという思いで作業所を運営しています。小田原以西で唯一の施設で、平成26年に移設した現在の施設も既に手狭になってしまいました。同年7月に神奈川県施設建設助成金の申し込みをしましたが、設備・備品等は助成対象外です。不足する資金をどうするかが懸案でした。9月に認定NPO・県指定NPO団体の勉強会で『エラベル』を知って、寄付集めに取り組むことを決意し、応募しました。

寄付集めを本格的にやるのは初めてでした。利用者さんの家族への寄付のお願い手紙、地域の新聞社（湯河原新聞、相豆新聞）に記事掲載のお願い、エラベル寄付カタログを町内の多くの施設に置かせてもらうお願いなど、とにかく思いつく限り働きかけました。そんな中で神奈川新聞（2/18）が3面で大きく取り上げてくれ、寄付者が広がりました。また、湘南生活クラブ城下町コモンズが3月初旬の大会に招いてアピールを行い、その場で募金箱でのカンパを頂きました。

募金活動を3か月間行ななかで、つくづく「人と人との繋がりが大切である」と実感しました。

円安もあって資材が高騰し、建築費は当初予定より高くなりましたが、地元の建設会社の協力もあって、9月5日に着工に漕ぎ着けました。平成28年2月には竣工予定です。

協力いただいた市民の皆さん、団体や企業の方々に、あらためて感謝申し上げます。



建設が始まった新しい地域作業所をバックに笑顔の鈴木所長。
10月31日に棟上げしました。